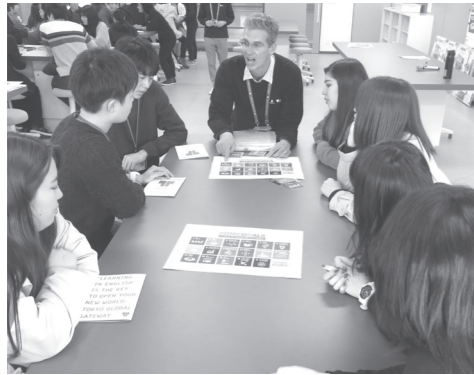


▼SDGsについて英語でディスカッションする学生たち。



で研修のグループを作っていました。今回は4月1日に受験したTOEICの得点に応じてグループを分けました。「本学の英語の授業は、TOEICの得点でクラスを分けています。学外研修でも同じ方法でグループ分けすれば、再び同じクラスで授業を受けると考えました。新年次のクラスは1月末のTOEICのテストの成績で決まります」

「英語の発話量は十分だと思えます。今後改善すべき点のひとつは、イングリッシュ・スピーカーと学生とのレベルの調整。研修に参加した学生はTOEIC200〜700点と成績が幅広いので調整は難しいのですが、例えば空港で航空券を買うという場面で『チケットをください』という会話では少し物足りない。私としては『どんな席のどういうチケット』など具体的なことで学生に言わせたいと思えました。そうした点は来年の課題として、内容のブラッシュアップを重ねています」

学外研修をはじめ多彩なサポート制度を用意

同大学はネイティブによる授業のほか、交換留学(学費免除)、や長期・短期留学、ハワイなどで観光系企業のインターンシップなど、英語力を磨くチャンスも豊富に用意しています。

「ネイティブ講師の授業を受講できる上に、成績上位者は奨学金などの優待制度も受けられます。それらの制度や留学プログラム

【問い合わせ先】

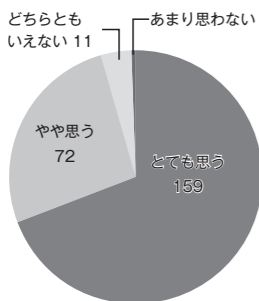
(株)学研プラス英語教育事業室

西日本教養室 03(6431)1573 global-english@gakken.co.jp

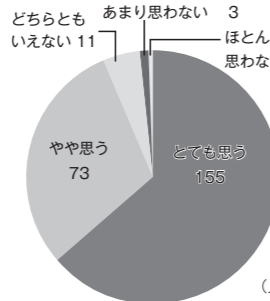
▼今回の学外研修に参加した学生に行ったアンケート集計結果

参加者243人

Q 今回の体験は今後の英語学習の刺激になりましたか?



Q 学外研修を通して新しい友人はできたと思いますか?



がらより良いものに磨き上げていきたいと思っています。全く違うプログラム内容に変わると、また違う調整が必要になり、なかなか形ができません。プログラムを精査し、各セッションの有機的な連携をめざすなどして、学外研修が学生全員にとってよい体験となるものをめざします。学生たちにはこの学外研修で、大学生活を気持ちよくスタートしてもらいたいですね」

英語の授業につながる研修プログラムを求めて

文京学院大学では入学間もない4月、新入生同士の親睦を深め、新生活に順応することを目的として、学外研修を実施しています。これまで福島県での合宿や、帝国ホテルでのマナー研修などのプログラムに取り組みしてきましたが、今年度は外国語学部で学研プラスがプロデュースするTOKYO GLOBAL GATEWAY(TGG)のプログラムを採用しました。TGGは2018年9月に東京・お台場エリアに開設された体験型英語学習施設です。イングリッシュ・スピーカーとの英語での発話を通じて、自身の英語力を試したり、外国人とふれ



文京学院大学 外国語学部准教授 阿佐宏一郎 先生

合う機会を得たりすることができそうです。外国語学部・阿佐先生に、新プログラム採用の理由を聞きました。

「過去の研修ではクラスメイトが仲良くはなりますが、外国語学部の学びにはつながりませんでした。本学部は研修の翌日から授業が始まり、週3〜4回はネイティブ講師の授業があります。英語を学ぶモードに入っていないと、授業のルールや来週までの課題を理解できません。そこで、学外研修に英会話のプログラムを組めないものかと検討していたところ、TGGを知りました。TGGを活用した研修なら、新入生の交流と同時に英会話のウォーミングアップができ、ネイティブと関わることで英語学習の動機づけにもなります。TGGのイングリッシュ・スピーカーとの交流を、学生たちが楽しみながら体感できたのはよかったです」

学研と大学が協力してプログラムを開発

学外研修の内容は、TGGの

▼学外研修のプログラム

内容	目的
① ビジョンシェアリング ワークショップ (日本語)	今後の夢や目標を学生同士で語り合う
② TGG チームビルディング (英語)	施設を使った体験型英語学習
③ TGG アトラクションエリア (英語) ランチプログラム (英語クイズなど)	英語が伝わる感動を得る
④ TGG アクティブイマージョンエリア (英語)	英語を学び、生かす重要性への気づき
⑤ タクトピア 英語教育事業部長 嶋津幸樹氏 講演 (日本語)	英語を学び、生かす重要性への気づき

*学生は事前事後にマンツーマンオンライン英会話を受講。

プログラムを核とし、大学と学研とで何度もやりとりを重ねて組み上げました(右表参照)。「例えば『ビジョンシェアリングワークショップ』での、学生たちの討論への大学教員の関わり方を提案するなど、日本人や外国人のスタッフがやってくれることと我々がやることのすり合わせをしていきました」この研修での新しい取り組みの一つが、学生のグループ編成。これまでは英語の習熟度がバラバラな初年次セミナーのクラス